

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4171100011
法人名	社会福祉法人 真栄会
事業所名	グループホーム 葉のはな
訪問調査日	平成19年11月29日
評価確定日	平成20年2月7日
評価機関名	

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171100011
法人名	社会福祉法人 真栄会
事業所名	グループホーム 菜のはな
所在地	佐賀県神埼市千代田町託田989-1 (電話) 0952-44-4427

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成19年11月29日	評価確定日	平成20年2月7日

【情報提供票より】(平成19年10月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14人	常勤	14 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 14 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	2,160 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	800 円		

(4) 利用者の概要(10月17日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	76 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中下医院(内科、胃腸科、放射線科)
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲を田園に囲まれ同一敷地に特別養護老人ホームが併設されている。先に開設された特別養護老人ホームで培った介護の経験からグループホームの必要性を実感し開設されている。木を基調とした作りで全体に木の香りが漂い落ち着いた雰囲気である。医療連携体制を導入するなど健康面でも入居者、家族の安心へつながっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	食事を楽しむ事の出来る支援では遅出の職員一人が全介助者の食介助を行うが他の職員は一緒にテーブルにつき一緒に食すという業務改善がされている。地域との交流については引き続き運営推進会議等を利用しての一步進んだ取り組みに期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を全職員で検討し各々が評価の意義を理解している。これ迄のケアを振り返りながらその評価を活かして入居者を中心にした質の向上につなげようとする前向きな姿勢が窺える。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催され議事録も記載されている。地域交流や、災害対策協力等も含めた意義ある会議に発展することと期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情受付者名の明示、意見箱の設置もなされているが活用が少なく、日頃から家族の面会時等を利用し日常会話の中から生の声を聞き出すことに努めている。出された意見等は話し合い解決に結びつけようとする体制である。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目⑥	地域密着の趣旨は良く理解している。地域とのつきあいについては、ともに暮らす地域の一員とし事業所と地域の人々が支えあうような双方向の関係が一層充実するよう運営推進会議等を活用した取り組みの工夫を期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	玄関、フロア、事務所に理念、方針、などの基本方針が掲示されている。	○	事業所としての明確な理念はつくりあげられているが、地域密着型サービスとしての役割を反映したものとなるような理念づくりが期待される。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月1回のホーム会議時には必ず理念を振り返り共有に努めている。理念の具体化が日々のケアに連結するという意識づけがなされている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時の挨拶や近くの保育園児の来所等も計画されているが地域の一員として又、地域の人が気軽に立ち寄ってもらえる様な交流にまでは至っていない。	○	立地的に難しいとはいえ老人会、自治会、運営推進会議等を介してなじみの暮らしの継続が出来る様、地域の人々との様々な交流に向けた一層の取り組みが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行いサービスの質の向上に努めている。改善課題を前向きに受け止め一歩ずつ前進しようとする前向きな姿勢が窺える。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議が定期的に行われている。参加メンバーからの率直な意見を引き出しサービスの向上につなげる貴重な機会としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	併設の特別養護老人ホームにおいては、配食サービスや生きがいデイサービスなどの事業を市から委託を受けて実施し、それらの事業を通してサービスの質の向上に取り組んでいる。また市町村の窓口にはパンフレット、事業所便りなどを置きホームの理解を促している。	○	経営母体となっている併設の特別養護老人ホームを通じた行政との連携が図られているが、地域密着型サービス事業所としてホーム独自の積極的な連携も期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や月1回発送する請求書に写真等を同封し日頃の暮らし振りの報告を行っている。状況に変化が認められた時はその都度電話による連絡がなされている。	○	職員の採用や異動があった場合の職員紹介についても、面会時や又、紙面等を利用しての情報提供の充実が期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置の他、面会時を利用して日常会話の中から家族の意見や不満を引き出せるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニット職員は固定し馴染みの職員によるケアを心がけている。	○	職員の交代については家族も不安や不満を持ちやすい部分でもあり、新採用等職員の交代があった際の利用者や家族への説明・対応方法について更なる工夫を期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で開催される研修には全職員が段階的に参加出来る様計画されている。研修報告は毎月の全体会議で伝達し作成された研修報告書は全職員が閲覧出来る。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「グループホーム長等意見情報交換会」に出席する等して情報を得て当事業所外の意見や経験をケアに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人や家族に会い安心と納得が得られるような話をしている。家族等の状況で入居を急がれる場合でも、家族や介護支援専門員等の関係者に来てもらう等して利用者本人に安心感を持ってもらうよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護される一方の立場に置かずお互いに喜びや悲しみを共有しながら穏かな生活が出来る様に場面作りや声かけをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居当初からすると身体機能の低下と共に希望も少なくなった今、顔の表情から真意をくみ取ったり家族から情報を得る様にしている。要望が少ないからこそくみ上げる努力が必要であることを意識して接している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては、課題となる事などをスタッフで確認しながら必要な支援の検討がなされている。	○	家族や関係者の気づきや意見・アイデアを反映しながら本人本位の計画作成の一層の充実を期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化があった時は現状に即した新たな計画を作成し、変化がない継続の場合は6ヶ月毎の見直しがなされ目標に添った評価と記録がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者、家族の状況に応じて通院や外泊時の車椅子移送支援も柔軟に対応している。看護職員を配置し健康管理支援と共に医療連携体制の仕組みを整え本人、家族への安心につなげている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通常は、ホームの協力医が主治医となっており、受診とは別に年1回の健康診断も行われ、通院介助後は家族にも報告がされる体制をとっている。しかし、本人や家族の希望があれば、かかりつけ医の受診もできるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「医療連携同意書」により入居者が重度化し看取りの必要性が生じた場合、経過の説明と介護方針を話し合い出来る限り家族の意向に添った支援が出来るよう、家族等と話し合い、確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄や、入浴時の支援の場面では、自分がその立場になった時の事を念頭に置きケアに当たっている。個人情報保護も職員は理解しており記録物にもそれぞれの配慮がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	曜日毎のスケジュールはある程度決められているが職員側で決まりや都合を優先するのではなく体調や天候等に応じ一人ひとりの思いを把握して柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設の特別養護老人ホームの厨房で調理された食材がホーム内に運ばれ個々への盛り付けになっている。箸、湯呑み、飯碗は馴染みの物が持ち込まれ家庭的である。職員も運出業務を除いて一緒にテーブルで食する事でさりげない声かけがなされている。	○	献立づくり、買物、調理など食事に関する一連の作業を普通の暮らしの場面として利用者の個々の力を活かした食事のあり方についての検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間の入浴は行われていないが昼間は毎日の入浴も可能で、プライバシーに配慮した1対1の入浴支援が行われている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりが出来そうな仕事を頼んだり、お手玉作りや干し柿作りなどの利用者の経験や知恵を発揮する場面が作られている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節毎の行事の他、天候、体調に応じた日常的な散歩や買物・ドライブ等に出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかける事の弊害を理解している。利用者一人ひとりの外出のくせや傾向を把握し、見守りながら支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得ながら年2回の災害訓練が行われている。	○	職員だけの誘導の限界を具体的に確認し、地域住民の参加や協力を得ながら避難訓練等の実施も期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の特別養護老人ホームの管理栄養士による献立で栄養バランスは保たれている。食事、水分摂取量も毎日チェック表に記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間には見やすい時計、カレンダーが掲げられ、畳には掘りコタツ、要所要所にはソファも置かれくつろぎと語らいの場としての居心地のよい空間を作っている。浴室も家庭的な設えとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン、ベッドは備え付けのものであるが、位牌、鏡台、小タンス、椅子、家族写真等の日用品が持ち込まれ入居者の安心と居心地の良い居室作りがなされている。		